

人生に大切なものは、VとW

教頭 吹野富美夫

夢の実現には、何が大切なのでしょう。その答えのひとつに、「人生に大切なものは、VとW」という言葉があります。

「人生に大切なものは、VとW」という言葉は、2006年に様々な組織に分化するiPS細胞をマウス皮膚細胞から作製することに成功し、2007年にヒト皮膚細胞からiPS細胞を作製することに成功したことから、2012年にノーベル生理学医学賞を受賞した山中伸弥先生のもので。この言葉は、山中先生の著書『山中伸弥先生に、iPS細胞について聞いてみた』の中で、カリフォルニア大学サンフランシスコ校と連携しているグラッドストーン研究所での留学時代に、研究所長のロバート・メーリー先生から教示いただいたもので、魔法の言葉であると紹介しています。VはVisionの頭文字で「長期的目標」、WはWork hardの頭文字で「一生懸命働く」ことで、長期の展望を見据えて、それに向かって努力を重ねれば、自ずと結果は付いてくるということです。

「長期的目標」は、研究の世界では研究の核となる仮説のことで、山中先生も初めから独創的な仮説を立てることはできませんでした。また、山中先生は、人生における幸不幸は予測ができない、まさに「人間万事塞翁が馬」と思える出来事の連続で、研修医時代の挫折が基礎医学への進路を選択する契機になったと振り返られています。

一方、「一生懸命働く」ことは日本人が得意なことです。いつの間にか目的を見失い、何のために働いているのか分からない状態に陥ってしまうことが希にあります。山中先生にもそのような自覚があったので、メーリー先生の教えが心に響いたそうです。

人生は、長い道のりです。「長期的目標」を見据えながら、ペースの配分も必要です。山中先生は、難病に苦しんできた患者さんたちに笑顔を届けたいという思いを胸に、今日も研究に取り組んでいます。

平成28年12月6日